新　城　市
若　者　議　会
（第６回）

平成２９年８月２２日１９時００分～

新城市議会　議場

議長／加藤稜唯委員

若者議会、議長の加藤です。

若者議会条例第６条第１項に基づき、本日の進行を務めさせていただきます。

ただいまから、第６回新城市若者議会を開会します。

６月５日にこの議場で第１回若者議会が開催されました。委員、一人一人が所信表明をさせていただき、新城市の未来に対する若者の思いを語りました。その後、私たちの思いを実現するべくさまざまな活動をしてきました。

今年度は、ＹＭＭユース・マネージャー・ミーティングという会議を設け、若者議会の方針や各提案事業のあり方などを委員が中心となって協議しています。

本日の政策、中間発表に関しても、あり方についての協議を重ね、よりよい政策にしていくための場となるよう、この日のために準備をしてきました。

私たちは、今まで検討してきた事業の内容を報告させていただくとともに、９つの提案事業に対し、さまざまな御意見や御提案をいただきまして、その後再度検討し、11月の市長に対する答申に向けて、真剣に議論していきます。

なお、10番の若者消防団員加入促進事業については、第３期若者議会から新規で提案された事業であり、時間の関係で議場での意見交換の時間は取らず、関連部署と若者議会の間での政策シートのやりとりのみとさせていただいております。

それでは、お手元の順序表にありますように、事業ごと発表させていただきます。発表の時間は、１事業３分以内、その後８分以内の質問、提案の時間を設けます。発表した事業に対し、市の執行部から聞きたいことやアドバイスをお願いいたします。

それでは、初めに広報ＰＲチーム、若者議会ＰＲ事業です。メンバーは、伊藤委員、丸山委員、瀬野委員、瀧谷市外委員、メンターとして、佐々木さんよろしくお願いします。

広報ＰＲチーム、若者議会ＰＲ事業

第３期若者議会ＰＲ事業です。

若者議会ＰＲ事業は、今期で３年目となります。

私たちは、さまざまな手法を用いて、若者議会をＰＲすることをミッションに掲げ、活動しています。現状、市内の方々の若者議会の認知度は広報「ほのか」公式ホームページ、公式ＳＮＳなどにより、高くなってきているものの、具体的な活動内容までは知らない人が多いです。そのため、今期の目的は、若者議会の地域のファンをふやすことに決定しました。市民の方々に若者議会の活動を知っていただき、理解者をふやしていくことで若者議会を持続的に新城市の政策として、定着させることを目指します。

この目的を達成するために、４つの目標を掲げました。

１つ目は、若者議会の会議ごとに、地域の方が自由に来てくださること。２つ目は、街頭アンケートで若者議会のファンですかという質問に対し、ファンですと回答する割合が全体の70％に達すること。３つ目は、若者議会の（ホームページの）ページビューの平均が月２万アクセスになること。

そして、４つ目は、第５若者議会の議員の応募者数が40人に達すること。

以上の４つを目指します。

そして、これらの目標を達成するための手法について、大きく３つに分けました。

１つ目の地域へのアクションでは、若者議会の活動内容を具体的に知ってもらうために、若者議会の活動報告会を地域で開催したり、高校などの教育機関で若者議会のＰＲ活動をします。

２つ目のホームページ強化では、若者議会の公式ホームページの機能の拡充を考えています。例えば、委員ごとの紹介ページや、地域の皆さんの意見を聞くためのアンケート機能強化などを追加することです。

３つ目のその他では、新城市を知るツアーを開催して、新城についてもっと自分たちが知り、地域の人たちと交流します。

また、藤が丘の人たちとも交流をもって、広報ＰＲ活動の拡大を目指します。

この事業によって、若者だけではなく、あらゆる世代の方々を巻き込んで、多くの市民の方々に若者議会のファンになってもらえたらなと思っています。そして、市民全員で若者を盛り上げる環境をつくって、新城市が脱消滅可能性都市になるよう、これからも市民の皆様と一緒になって頑張っていきたいなと思っています。

以上で発表を終わります。

議長／加藤稜唯委員

次に、この事業に対する質問や提案等があればお願いします。三浦企画部理事。

企画部理事／三浦

失礼いたします。若者議会ＰＲ事業につきまして、非常に前向きな提案をいただいたというように思っています。

そこで、２点伺いたいと思っております。

まず、１点目でございますが、事業概要シートの目的にあらゆる世代の市民全体で若者を盛り上げて、応援する体制を目指し、若者議会の地域のファンをふやした上で、若者議会の会議ごとに地域の方が自由に来ていただくという目標を掲げられておりますが、会議の会場がある地域に偏ったり、また、参加する方々の年代層が偏らない方法などは、考えておられるでしょうか。会場でいいますと、鳳来地区、作手地区などでの開催について、考えているのでしょうか。

２点目でありますが、この新城市を知るツアーを地域の方と合同で開催するとのことでございますが、この若者議会の委員だけでなく、市民の方と一緒に地域を知るツアーを開催することは、世代を超え、多くの市民の皆様と情報を共有することからも大変有意義なことだと考えています。

例えば、この市内には多くの公共施設がございまして、その利活用など将来を考えながら世代を超えて議論してみることは大切なことだと思いますので、いい提案となるよう地域の皆様、例えて申し上げれば、地域自治区の地域協議会がございますが、その地域の皆様と一緒になって、まとめ上げていただければとこのように思う次第でございますが、そのような考えはあるでしょうか。

以上、２点でございます。

伊藤翔音委員

１点目の質問に対して、答えさせていただきます。
現在案の一つとして現在行っている、会議開催の集中広報に加え、夜８時の定時放送での周知を検討してもらいたいです。
また、現在、新城地区でのみ開催している若者議会の全体会議についてですが、鳳来地区、作手地区でも開催することで、一定の地域、参加者が偏らず、さらに多くの方の参加につながると思います。
しかし、そうなった際には、委員の交通面などの課題が出てきますので、今後検討していきたいと考えています。

丸山綾香委員
２つ目の質問、提案について回答します。
第２期若者議会では、新城自治区の地域協議会の皆さんと話し合いの機会をいただき、まちなみ情報センターについて、意見交換をしました。よりよい提案にするために、地域の方と一緒になって提案をまとめ上げる機会を今後積極的につくっていけたらいいなと考えています。
以上です。

議長／加藤稜唯委員
ほかに、質問や提案等はありませんか。西尾議会事務局長。

議会事務局長／西尾
それでは、御質問をさせていただきます。
昨年私はこの若者議会のＰＲ事業におきまして、各地域で活動をしている若者をまちづくり団体、まちづくり組織の皆さんの交流を促進するためのＰＲ事業を活動させたらいかがですかという御提案をさせていただきました。
そうしたところが、今回については地域の中でファンをつくるということで、地域に出向いていくというそうした動きが出てきていただいて非常にうれしい思いがしております。
そうした中で、地域協議会との意見交換でも昨年度来いろいろと温かい意見が出ているわけですが、どのように地域の中で若者議会がこの貢献が地域に対してしていけるのか、また、そういった地域の意向といったところの十分そうしたものができているかどうか、そうしたようなことを確認するようなことが必要かなというように思っております。
地域の皆様にファンとなっていただくために、若者議会が地域のためにどんなことをすべきかまた、どんなことができるのか、そうしたことについてお考えを教えてください。

瀬野航太委員
ありがとうございます。非常に大切なことだと思います。
まずは、若者議会の活動を詳しく知っていただくことが大切だと思います。先日、地域の方などをお招きして、プレゼン大会を開催し、東京や名古屋など年配の方から若者まで、さまざまな方に貴重な御意見、御指摘をいただきました。自分たちもそれによって勉強することができました。

また、来月の９月24日の地域交流会でも、意見を交流する会があるなど、若者議会と地域の方や、外部からの交流を通して、お互いの意向が合っているかの確認はとても大事なことだと改めて思いました。

紙媒体や電子媒体、放送による宣伝は、一度に多くの人に宣伝できるため、効率的ですが、直接顔を合わせてでしか伝えられないこともあると思います。今後もこのような交流を通し、地域の皆さんとの深いつながりができていければよいと思います。

瀧谷大和市外委員

先ほどの質問の答えにつけ加えさせていただきます。

ただ、この場合、参加していただけることが見込めるのは、一部の方に限られてしまいます。そのため、ホームページのアンケート機能の追加や、広報「ほのか」公式ＳＮＳの活用も大事だと思います。手法にある、若者議会ホームページ強化で、アンケート機能を追加したり、ツイッターのダイレクトメールでも意見してもられるよう、ツイートで呼びかけるのもどうでしょうか。

このように、気軽に御意見や質問ができるようにすることによって、よりたくさんの意見を取り入れることができるようにしていきたいと思います。

地域の皆さんにファンになっていただくため、今あるブログや広報の強化はもちろんのこと、若者議会という言葉だけでなく、活動内容も理解した上での応援を目指し、ＰＲ内容の強化に努めていきます。

議長／加藤稜唯委員

時間となりましたので、これをもちまして質問、提案を終了します。

自席にお戻りください。

（拍手）

次に、広報ＰＲチーム、若者アウトドア観光事業です。

メンバーは、杉本委員、中村委員、天野委員、メンターとして織田さんよろしくお願いします。

広報ＰＲチーム　若者アウトドア観光事業

こんばんは、若者アウトドア観光事業です。

私たちは、４人全員が観光スポットの多い、鳳来地区に住んでいます。新城に通っている高校生に新城の観光スポットが知られておらず、悔しい思いをしたことや、都会に住む友達を新城に呼んで遊んだら喜んでもらえてうれしかったことなど、それぞれの経験から、新城の観光スポットをもっとＰＲしたいと思い、その方法を考えています。

きょうはまず、アウトドア観光事業の大きな目的、それから私たちがどんな新城を目指すのかという目標、そしてそれに近づくためにやっていきたいことを順に説明します。

初めに私たちの目的は、新城市が市民や新城市へ移住してくる人にとって住みやすいまちになることです。

では、この目的を達成するための２つの目標を発表します。

１つ目の目標は、新城市の観光地を訪れる市外の若者をふやすことです。若者目線の

広報手段を利用して、新城市を多くの同年代の人に知り、そして来てもらうことは税収アップ、活性化につながると思います。

２つ目は、新城の若者に新城市の観光地を本気で好きになってもらうことです。若者目線での広報、遊び方の提案をして、新城市に住む若者が新城市のことをすごく好きになるきっかけをつくります。

最後に、２つの目標を達成するための手法を紹介します。

今期チームの事業として、独自のインスタグラムの更新、女性や若者向けの観光パンフレットの制作を利用して、若者目線での広報を進めていきます。

では、若者目線での遊びの提案として、２つの事業を提案します。１つ目は、ＳＵＰの貸し出しです。ＳＵＰとは、スタンドアップパドルサーフィンの略で、近年、世界中の海や湖、川で楽しまれているスポーツです。ＳＵＰの貸し出しを行うことで、新城市の魅力に触れながら、若者目線のスポーツを楽しんでもらうことができます。

２つ目は、レンタサイクル事業の拡充です。レンタサイクルを利用することで、気軽に新城の魅力を感じてもらうことができます。

また、飯田線主要駅に設置することで、飯田線の利用向上にもつながると考えています。

以上で若者アウトドア観光事業の発表とさせていただきますが、初めに説明した目的を達成するためにも、今期と合わせた４つの手法を使い、新城市を盛り上げていきたいと思います。

御静聴ありがとうございました。

議長／加藤稜唯委員

次に、この事業に対する質問や提案等があればお願いします。

産業振興部長／古田

たくさんのご提案をいただきまして、ありがとうございます。

まず、私のほうから手法のところで、本年度行う事業のことで、３点ほど御質問をさせていただきたいと思います。

本年度の事業で、インスタグラムの更新、それから女性、若者向けの観光パンフレットの作成という２つがございますけれども、まず、御質問の１点ですが、観光地の魅力を自分なりにどのように捉えていますか。具体的には、こうしたインスタグラム等で、何を伝えていきたいと考えていますかというのが御質問の１点。

それから２点目として、若者から見た今の観光地の現状につきまして、観光地ごとに、こうしたらいい、こう考えたらよいというような具体的なビジョンやアイデアなどがありましたら、御紹介いただきたいと思います。

それから３点目に、若者や女性だけでなく、幅広い年代層から本市に来ていただくために、観光とスポーツ、歴史、文化等を若者目線からどう結びつけたら誘客ができるか、何かお考えがありましたらよろしくお願いいたします。

杉本麻郁子委員

まず１つ目の観光地の魅力を若者なりにどのように理解、認識しているかについてです

が、新城市の魅力は、自然が豊かなところだと考えています。ほかには、自然の美しさに触れることもでき、さらに乳岩など若者が求める写真映えする風景が多くあると思います。

続いて、若者から見た今の観光地の現状についてです。

自然が豊かな観光地であるということは、山の中の観光地が多いということです。それらの観光地の多くは、交通アクセスに難があると考えます。

私たちが視察に行った乳岩峡では、トイレなどの設備はきちんと管理されていましたが、とてもわかりにくい道のりでした。観光地の環境よりも、そこまでにたどり着くための方法をもっと詳しく紹介していくべきだと感じました。

そして、バスの本数をふやしていくよりも、訪れる人に明確にアクセス方法を示すという方向で改善できたらいいと思います。その方法として、自然系、展望系、アクティビティ系など系統ごとに観光地を紹介して、詳しいアクセス方法などをインターネットで簡単に閲覧できるようになったらいいのではないかと思います。

議長／加藤稜唯委員

３点目の幅広い年代層に向けてについてなんですけど、若者議会のほうでお答えいただけないでしょうか。

天野瞳汰委員

ただいまの質問では、スポーツでは、ＳＵＰやマウンテンバイクなど自然を間近に感じながらできるアクティビティを市でサポートし、盛り上げていくことがよいのではないかと思います。

同時にＳＮＳなど各方面で宣伝していくことで、特定のスポーツに興味がある人たちを多く勧誘できるのではないかと考えます。文化、歴史を生かすには、それらに関したイベントを行うのもよいのではないかと思います。

例えば、長篠の戦で活躍したその子孫の方々と交流会や、馬防柵、長篠城跡などをめぐる歴史ツアーを開催するなどです。

こちらもまた、ＳＮＳで宣伝を有効活用できたらなと考えています。

議長／加藤稜唯委員

ほかに、質問や提案等はありませんか。古田産業振興部長。

産業振興部長／古田

ありがとうございました。

事業の概要の２点目になりますけれども、来年の答申事業案で、ＳＵＰの貸し出しとレンタサイクルの事業の拡充という２つを上げられています。

ＳＵＰにつきましては、水上スポーツということでありますけれども、安全面ではどのような配慮を考えておられるか、また実際にだれが貸し出しをして、どのような運営を想定しているのかという御質問です。

また、２点目のレンタサイクル事業に関しましても、ＳＵＰの事業と同じく、だれがどのように運営していくか、想定しているかお聞かせいただきたいと思います。

天野瞳汰委員

まず、ＳＵＰについてですが、安全面については、ＳＵＰの事故例は海、または湖で多く、特にほかの水上スポーツとの接触事故によるものが大きなところだと調べてわかりました。安全講習は受けること。ライフジャケットを身につけるなど、水上スポーツの危険管理上で最低限必要なことは遵守し、さらに運営方法に合わせて安全性を確保していきたいと思います。

運営についてですが、今後民間企業などと打ち合わせを踏まえながらしていきたいと思っています。

杉本麻郁子委員

次に、レンタサイクルについてです。

だれが運営するかは、まだ検討中ですが、南三陸町では、観光協会などが管理して、観光地を回れるコースも紹介しています。今後もさまざまな自治体の運営方法を調べていきます。

実際にどこに自転車を置くことを想定していくのかについてですが、それについては、飯田線の駅を想定しています。

議長／加藤稜唯委員

ほかに質問や提案等はありませんか。西尾議会事務局長。

議会事務局長／西尾

済みません。目的のところで、観光客が訪れることでその結果として移住する方ですとか、住みやすいまちにしていくことを目的というように掲げられておられてますが、いわゆるそうした観光地を訪れ、好きになることと、住みやすいまちとの関連性につきまして、もう少し詳しく教えてください。

中村沙南委員

新城市を好きになって観光客がふえれば、観光客による市内でのお金の消費が増加し、市の財政が潤います。

また、観光客の増加によって、観光地に行くための公共交通機関の利用がふえれば、バスの本数が増加したりし、通学、通勤において便利になり住みやすいまちになるとも考えています。

以上です。

議長／加藤稜唯委員

時間となりましたので、これをもちまして質問、提案を終了します。

自席にお戻りください。

（拍手）

次に、ブラッシュアップチーム、図書館リノベーション事業です。

メンバーは、河田委員、瀬野尾悠斗委員、瀬野尾宗伺委員、メンターとして井上さんよ

ろしくお願いします。

ブラッシュアップチーム　図書館リノベーション事業

ただいまから、ブラッシュアップチーム、図書館リノベーション事業の発表を行います。

図書館リノベーション事業は、新城図書館を若者目線でリノベーションを行う、第１期若者議会から３カ年継続事業であり、今年度が最終年となります。

１期では、２階エリアのリノベーションを行い、２期では、１階エリアのリノベーションとソフト事業が今年度実施されます。

皆さんは、サード・プレイスという言葉を御存じでしょうか。サード・プレイスとは、言葉のとおり第３の場所で、第１の場所である家、第２の場所である学校や職場とは隔離された心地のよい空間のことです。

私たち、３期においては第１期、２期の事業を実施し、さらなる改善を図りブラッシュアップをすることで、図書館をさまざまな世代のより多くの人々にとってのサード・プレイスにすることを目的とします。

あらゆる世代に満足してもらえるサード・プレイスにするには、図書館を活性化することが必要になります。１期、２期事業では、形を変えるイベントを実施し、実施することを成果事業としていましたが、３期では、ブラッシュアップすることが目的です。

そこで私たちが目をつけたのは、貸し出し冊数です。具体的な目標は、毎年貸し出し冊数が減少傾向にあるので、前年度よりも貸し出し冊数を増加させます。これは、イコール図書館を訪れる人や利用者数もふえるということなので、図書館の活性化につながります。

そこで、この目標を実現するため、私たちで手法を考えました。

現在挙がっている手法として、５項目あります。この５つの手法の中で、具体的な話し合いが進んでいる出張図書館の企画について説明させていただきます。

出張図書館とは、市内のイベントにイベント内容に関する図書ブースを設置し、これまで図書館を利用したことがない人などに、図書と触れ合うきっかけをつくり、「図書館が行く」という企画になります。

例えば、高校生を対象とした新城企業展に、図書館司書さんが選書した出展企業に関する職種の図書や、就職をテーマにした図書を展示します。

読書ブースも設けるので、その場で読むこともできますし、借りることもできます。モチベーションが高いうちに図書を読む、借りることができるこの企画は、図書館利用者の新規開拓につながると考えます。

今後も検証作業や担当課との話し合いを続けることで、目標を達成するための手法を検討していきます。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

議長／加藤稜唯委員

次に、この事業に対する質問や提案等があればお願いします。請井教育部長。

教育部長／請井

３期目になります、図書館リノベーションということで、図書館の活性化にいろいろとアイデアを出していただきましてありがとうございます。

私のほうからは、まず３点、確認をさせていただきたいと思います。

まず、１点目ですけれども、３年の計画期間ということで進められておりまして、今回３期目ということになるんですけれども、評価として計画は順調に進んできているというようにお考えかという確認です。それから、１期、２期の成果について、評価をどのようにされているかということをまず教えていただきたいと思います。これが１点目です。

２点目では、３期目のこの政策が実行段階になれば、一応その事業完了ということになりますけれども、その後若者議会として、このリノベーション後の図書館とのかかわりについて、どのようにお考えなのかということに、これについて２点目でお伺いしたいと思います。

それから、３つ目ですけれども、事業の実施について、いろいろと企画、アイデアを出していただいておりますが、やはり現場の図書館の担当と十分調整していただくということで、実施ができるかどうかということになると思いますので、図書館のスタッフ、職員との連携について、どのような進め方をされているのかということについて、まず３点お伺いしたいと思います。

よろしくお願いします。

瀬野尾宗伺委員

御質問、ありがとうございます。

１つ目の御質問ですが、１期で行われた２階リノベーションについて、多くの若者に活用されていますが、他世代の利用が少し少ないのではと、現在少ないのではというのが現在の状況だと思います。

郷土史資料室の多目的スペースについて、図書のコンセプト、話し合いのできるワークスペースの機能が十分ではないと判断しているので、ブラッシュアップが必要だと思います。

第２期の事業については、これから実施されていくので、今後しっかりと検証していきたいと思っています。

今年で、第３期となりますが、至らない点は、少しずつ見えてきていますが、総合的には順調に進んでいると私たちは考えています。

瀬野尾悠斗委員

２つ目の質問について、答えさせていただきます。

イベントに関して、最初の実施は、若者議会が主体となって実施させていただきますが、次回からは図書館が主体となって実施していただきたいと考えています。これからも若者が図書館にかかわれるようなアイデアを提供していきます。

瀬野尾宗伺委員

最後の質問になりますが、図書館リノベーションに関しては、スタッフさんや実行委員会等がかかわっているので、そちらへの情報提供等は、担当課のほうでお願いできればと

思っています。要請があれば私たちから出向いて、説明させていただきたいという結論になりました。
担当課の方と密に調整し、事業実現を目指しています。

メンター／井上
さきほどの１点目の質問のときに、若者の利用が２階の多目的スペースの利用で若者の主に勉強に使われている。図書館側としては図書の利用ではなく勉強の利用についてどのようにお考えになっているか、教えていただければ幸いです。

教育部長／請井
ありがとうございました。
今、逆に質問いただきましたので、図書館の２階、特に１階の利用について、コメントさせていただきたいと思います。
若者目線での図書館のリノベーションということで、図書館に足を運んでいただいて、図書館になじんでいただくということから、図書館の利用につなげていけばというようなことを考えられますので、まずは来ていただくことが一番大事かなということで、グループで勉強される方もありますし、単独で勉強される方もあると思いますけれども、まずは、利用はありがたい話かなと思います。
その中でやはり、図書館ということですので、先ほどお話がございましたように、若者だけの利用ではないというところをどのように皆さんが気持ちよく過ごせる空間にしていくかというところが、非常に難しい挑戦だなあというふうに思っていますので、さきほどちょっとお話しさせていただいた中で、出張図書館ということでありますけれども、スタッフの問題もありますし、図書館としてできるかどうか、それから多くの世代に利用しやすい気持ちのいい空間にどうしたらできるかということについて、図書館のスタッフ等と十分連携を取っていただいて、いい形でまとめていただければありがたいなというふうに思っています。
以上、付け足しをしましたけれども以上で終わります。

議長／加藤稜唯委員
ほかに、質問や提案等はありませんか。

教育長／和田
図書館の活性化ということで、すばらしいアイデア、いろいろ考えていただきありがとうございます。
出張図書館等、貸し出し冊数に目を向けて、目標を設定していただいたということで、とても嬉しいです。ただ、現在、活字離れ、本離れが激しい時代、やっぱり出張図書館を設けても若者や地域の人が手に取って見たくなる本とか、読みたくなるような本、そういったものがないと、なかなか貸し出しはふえていかないという、そのあたりについては何か考えはありますか。

瀬野尾宗伺委員

御質問いただいた、若者の本離れに関しては、私たちのほうでも非常に重く捉えており、今後の大きな課題になると考えております。

まだ、具体的な案は出ていませんが、イベント等を図書館ならではの、図書館でしかできないイベントをすることによって、図書への興味のきっかけの１つになればと考えております。

今回いただいた意見に関しては、今後の話し合いに関して、検討させていただきたいと思います。

ありがとうございました。

議長／加藤稜唯委員

時間となりましたので、これをもちまして、質問、提案を終了します。

自席にお戻りください。

（拍手）

次に、ブラッシュアップチーム、ハッピーコミュニティ応援事業です。

メンバーは、権田委員、森野委員、中川市外委員、メンターとして村松さんよろしくお願いします。

ブラッシュアップチーム　ハッピーコミュニティ応援事業

ハッピーコミュニティ応援事業について説明します。

この事業は、昨年の流れを引きつぎながら、今年はブラッシュアップという形をとっています。ハッピーコミュニティ応援事業とは、改めて説明すると皆さんご存じの新城駅前にあるまちなみ情報センターの若者の情報共有スペースにしたいということから始まった事業です。

今年の目的は、みんながわくわくできる場所づくりです。

平成27年度では、ハード面の見直しをすることで、若者が利用しやすいスペースへ。平成28年度では、もっと利用してほしい施設が市民に浸透してほしいということで、まちなみ情報センターの愛称であるもっせはーとを募集し、決定。また、定期的にイベントを試みることによって、若者に来てもらえるようにしました。現在は、もっせはーと職員が月に１回程度イベントを開催している状況です。私は実際にイベントに参加してみて、かかわったことがない人との交流や初めて会う人とも楽しく過ごせて、また行きたいという気持ちになれました。なので、イベントを若者を呼ぶときには、有益だと考えたので、今年度の目標の１つにして、月に１、２回のイベント開催を考えています。

ＳＮＳやチラシ、口コミなどさまざまな手法でイベントを宣伝して、たくさんの若者に参加してもらいます。また、イベント開催後にアンケートを実施するなどして、若者のイベントのニーズを把握したいと考えています。

また、静岡県の焼津市にあるやいぱるという施設では、既に高校生や大学生が自分でイベントを考えて実行するようなＰＤＣＡサイクルができているので、このような場所への視察も考えています。

目標は利用者数が今年度のプラス1,200人とイベント回数が月１、２回、手段は、イベ

ントの開催、ＳＮＳでの情報拡散、口コミ、チラシ、アンケートや声かけ、視察などです。
以上でハッピーコミュニティ応援事業の説明を終わります。

議長／加藤稜唯委員
次にこの事業に対する質問や、提案等があればお願いします。

企画部理事／三浦
それでは、質問させていただきます。
このまちなみ情報センターの利用率向上、活性化について御提案をいただきましてありがとうございます。
若者が活躍し、市民全員が元気に住み続けられ、世代のリレーができるまち。これを若者総合政策の最終目標としていますので、こういった視点から２点ほど伺いたいと思っております。
まず、１点目でございますが、このイベントの開催方法についてですが、来場者主催のイベントとは具体的にどのような方法を考えられておりますでしょうか。
また、その目標として、今年度利用者よりも1,200人増という数値目標を掲げてみえます。この目標達成には、若者世代だけでなくて、あらゆる世代の市民の皆さんの参加が必要だと思いますが、どのように考えてみえるでしょうか。
２点目、もう1つ質問させていただきますが、この利用者がやりたいことを実現できるようにすることを目的とされていますので、例えばでございますが、やりたいことを周知をしてこの３人以上とか、ある程度参加者が集まった場合にイベントが開催できるようなやりやすさといいますか、参加者の自由度を高くすることを検討してみては、これ提案ですがいかがでしょうか。
例で挙げますと、東京都文京区にあるビーラボでは、この施設では、利用者の提案によるイベントが多く行われておりまして、市民の方が多く参加をされている、一度調べていただくのもよろしいかと思います。
以上２点でございます。

森野なつみ委員
１つ目の質問に答えます。
来場者を巻き込んで、来場者の関心の強いイベント、ボードゲームなどを開催できればと思っています。そのための費用をどのようにすべきかなどについては、まだ検討できていないです。広報やイベント自体のやり方になどについては、（まちなみ情報センタースタッフ）たちまちづくり推進課職員でサポートしていただけるとありがたいです。
利用者のデータは、年代別に集計されているわけではないため、現在どの世代の利用が多いのかは定量的にはわからないですが、感覚的には、若者世代の利用が多いと思われます。
1,200人の数値の目標については、特に世代別の人数を想定しているものではありません。事業として特に若者をターゲットに絞っているわけではなく、広く多世代で利用される施設になればと思っています。

推測になりますが、イベント主催者やイベント内容によって、参加者に偏りが生じると思われます。若者が企画することにより、参加者も若者がふえる、多くなることは想定されるが、多世代間の交流が実現できれば、それもとても魅力的だと考えられるので、多世代間が参加できるイベントも実施できればよいと思っています。

２つ目の質問に答えます。

すでに来場者にホワイトボードにやりたいことを書いてもらえるようなコーナーを設けました。そこから実際にイベントが生まれてくれればよいと思います。

ビーラボには、27、28年度に視察に行っており、メンターからも様子を伺っています。今後、やいぱる等への視察を検討しており、ほかの施設のやり方も調べていきたいと思います。ビーラボ以外でも、視察先等に、適しているところがあれば教えていただきたいです。

議長／加藤稜唯委員

ほかに質問や提案等はありませんか。

中川　光市外委員

先ほど御指摘いただいたとおり、多世代の方々にまちなみ情報センターを利用していただくということは大変重要なことだと考えております。ＳＮＳ等若者、僕たちも若者ですので、若者に対してＰＲする方法というものは比較的検討ができるのかなと思っているんですけれども、30代、40代、50代、60代といったさまざまな世代の方にどのようにイベントですとか、まちなみ情報センターでおきていることを知っていただくというところでちょっと悩んでおります。

そこで、ぜひ教えていただきたいんですけれども、例えば町内会の回覧板のようなものを使って、まちなみ情報センターのイベントとかを周知・告知させていただくようなことなどができれば、大変ありがたいなと思うんですけど、その辺いかがでしょうか。

企画部理事／三浦

再質問でございますが、お答えですが、町内会の回覧などでということで御質問いただきましたが、回覧等に限らずに地域の方にどうやってお伝えしたらいいかというような御質問でいいでしょうか。

先ほど第１問目で、最初の質問、若者議会ＰＲ事業のほうで、委員の皆様方から地域自治区の地域協議会の委員の方と会議を持たれた。それからこういった機会を今後、積極的につくっていきたいというようなお答えをいただいております。

また、一方、地域協議会のほうでも若い方の御意見、それと交流を兼ねていただくいという意見を数多くいただいておりますので、今、御質問いただきましたように、世代を超えて議論するということは非常に大切なことだというように考えておりますので、地域の皆様と一緒になって、取り組めるように地域の方と一度調整をしてみたい。そういった中で、回覧ですとかそういったチラシですとか、そういったことで協議をいただければというように思います。

よろしいでしょうか。

中川　光市外委員

ありがとうございます。

議長／加藤稜唯委員

ほかに、質問や提案等はありませんか。

ほかにないようですので、これをもちまして質問、提案を終了します。

引き続き、いきいき健康づくり事業です。よろしくお願いします。

いきいき健康づくり事業

新城東高校２年の権田鈴花です。いきいき健康づくり事業についての説明をします。

まず、バブルサッカーについて説明をします。

バブルサッカーとは、５人１チームでバブルボールの中に入ってサッカーをするというスポーツで、普通のサッカーに比べ、転んでもぶつかっても安全でありながら、ランニングの2.5倍のカロリーを消費するという特徴があります。第１回新城市若者議会での答申をもとに、昨年度から新城市では、バブルサッカー健康教室を行ってきました。これは、健康課さんが担当課となり、25名の参加者が定期的にバブルサッカーを行う事業です。単にバブルサッカーをやるだけではなく、体重測定、血圧測定と毎回の健康講座を組み合わせにより、健康意識を向上させる効果もあります。

また、単発でのバブルサッカー体験も可能です。

この事業の目的は、若者のうちから、運動の習慣を身につけてもらうことです。それが実現できれば、新城市での死因の６割を占める生活習慣病の予防ができ、医療費を削減することができると思います。

また、健康講座により、ダイエットやストレスへの向き合い方などへの正しい知識が身につくこと、部活を引退した人や、帰宅部、若手社会人など運動をする機会が少ない人にも運動する機会を与えられ、また、若者の交流の場や出会いの場にもなると考えています。昨年度は申込者が少なく、定員の確保に苦労したということでしたので、目標としては、定員である25名の応募があること。全過程終了後のアンケートでも定期的に運動するとの回答率を76％から80％に上げることとしたいと思います。

今回、企画を考えるにあたり、実際にバブルサッカー健康教室を体験してみました。バブルサッカーはとても楽しく、運動量もかなりありました。また、一緒に参加した高校生からは、またやりたいとの声も多く聞かれました。

バブルサッカー自体は楽しいのに、申し込みが少ないのは、まだまだバブルサッカーを知らない人、バブルサッカー健康教室自体を知らない人が多いと考えました。

目標を実現するための手段としては、ＳＮＳ、ブログなどで、もっと情報を発信すること。また、新東、新高でのクラスマッチ等でバブルサッカーを体験してもらう機会を設けること考えています。

昨年度の参加者のアンケートを見ると、おおむね好評価であったのであったので、バブルサッカー健康教室自体は、現行のやり方を維持していこうと思っています。

今後は、担当課である健康課さんと、さらに意見交換を進め、参加者にとってよりよい事業にできるように頑張ります。

以上でいきいき健康づくり事業についての説明を終わります。

議長／加藤稜唯委員

次にこの事業に対する質問や提案等があればお願いします。川合健康福祉部長。

健康福祉部長／川合

それでは、質問等させていただきます。

今のいきいきづくりの事業につきましては、市の健康づくりの計画の中でも、世代の中で運動習慣をつけていく、それから日常生活の中でプラス10分多く動くというような内容の目標も定めております。そういうことから、今のいきいき健康づくり事業の目的という部分では、市の内容と合致している部分が多いというように思っています。

そこで質問をさせていただきます。

今、クラスマッチなどでの学校区内の周知を若者議会として独自に動いていこうというようなことが提案されていますが、本当にこういうことで実際に可能であるかどうなのか。それから、対象へのアプローチが高校生に偏っているというようなことがあるのではないかということで、若者というひとくくりにする上で、生活習慣病への対応という形で適切になってくる、30代の方々も含めて、どこまでの年齢層の方を対象というように考えているのかお教えいただきたいと思います。

それから、３点目、まだ若い世代の方々では、健康に不安を感じていない、生活習慣病の予防の必要性を身近に感じていない世代へのアプローチは、大変健康教室としても、難しいという部分もありますが、ただバブルサッカーをやって楽しかったというだけで終わらせないためには、やはりどうしても健康教室の内容が欠かせないというように思っています。やはり少ない参加者という部分では、ほかの目的ということで、ダイエットだとかストレス発散をメインにする、別の切り口も必要ではないかというように考えておりますので、その辺をどのようにお考えなのか、お聞かせいただければというように思います。

以上です。

権田鈴花委員

１つ目の質問に対して答えさせていただきます。

クラスマッチは生徒会主導であり、全校集会等は先生に確認を取る必要がありますので、若者議会としてどこまでできるか、どこまですべきかについては、検討したいと思います。高校は県所管であり、簡単ではないかもしれませんが、いずれにしても健康課さんとしても、積極的な働きがけをお願いしたいと思います。

２つ目の質問に答えさせていただきます。

対象としては、現在高校生以上としており、対象自体を現在の取り組みから絞るというつもりはありません。30代、40代にアプローチもできればと思います。

ですが、うまいやり方が思い当っていません。よいアイデアがあればぜひ教えていただきたいと思います。

３つ目の質問に答えさせていただきます。

目的は、参加者に運動習慣を身につけてもらうというところにあります。健康に不安

があるから運動するというだけではなく、楽しかったから続けたいということも大きな成果だと思っています。実際、参加者の７割以上は運動が継続していく意志はあるということですので、参加してくれさえすれば、健康教室自体はとても有効に機能していると思っています。１クール参加した高校生からは、最初のころはバブルサッカー後の筋肉痛で普段の運動不足を痛感し、体力の測定結果から自分に何が足りなくて、何が伸びたかわかり、最終的には成果が実感できたとの声も聞いており、参加すれば運動習慣も身につくと考えています。

政策の目的としては、あくまでも運動習慣を身につけるということを考えていますが、チラシ等のＰＲ方法としては、ダイエット効果やストレス解消という観点でＰＲしていくことも有効だと思います。

以上です。

議長／加藤稜唯委員

ほかに、質問や提案等はありませんか。川合健康福祉部長。

健康福祉部長／川合

ありがとうございました。

まだこのいきいき健康づくり事業にかかわっていないという方たちがやっぱり多いということは、先ほどの参加数の少なさみたいなものの中であると思います。ただ、若者議会のメンバーの方たちが、友人の方にお話しされたりだとか、周りの方の反応というのはどうであるのかというような形で意見をとっていくというような形をとったらどうかな、というようなことを思っております。

また、周知されているのを見たときに、実際にどういうことが理由で、参加に至らなかったのかというような意見をまとめていくと、新しい視点が見えてくるのではないかなという思いもしておりますので、ぜひそういう参加に至らない方たちの部分への意見をどう集めるかも検討してみたらいかがでしょうか。

よろしくお願いいたします。

権田鈴花委員

質問ありがとうございます。

周囲の反応はやってみたいという人が多いのですが、高校生であると部活に塾にと忙しく、大学生もバイト、サークルで忙しいと思います。社会人でも子どもがいる人は、子育てなどで、忙しいため参加に至らないと思います。また、大学生になれば交通手段として車がありますが、高校生だと自転車か電車なので、アクセス次第では厳しいと思います。

具体的な参加に至らない理由は、アンケートや聞き取り調査などを利用して意見を集めていきたいと思います。

以上です。

議長／加藤稜唯委員

それでは、時間となりましたので、これをもちまして質問、提案を終了します。

自席にお戻りください。

（拍手）

次に、ブラッシュアップチーム、地域とかかわる若者防災事業です。メンバーは土屋委員、浪崎委員、山本委員、メンターとして前田さんよろしくお願いします。

ブラッシュアップチーム　地域とかかわる若者防災事業

僕たち、地域とかかわる若者防災事業のブラッシュアップ検討中間報告を行います。

僕たちは、６月７日の新城中学校で行われた防災フェスタ、７月30日に千郷地区で行われた防災ピクニックに参加をし、さらに第１期若者議会から生まれた、若者防災の会「襷」という市民団体が行っている防災カフェ、６月５日の第３期若者議会の全体会が終了してからの分科会で話し合いをし、現場の声や事業の課題、ニーズの違いなどを知ることができました。

この中間報告では、課題の整理状況と課題をもとに目的、目標、手法を再設定し、その状況を発表します。

体験や話し合いで出てきた課題は、若者防災の会「襷」が開催している防災カフェが「襷」メンバーにしか広がりがなく、地域やほかの世代との交流が少ないこと。今年度の千郷学区の防災ピクニックに参加をし、地域のかかわりが少ないと感じたこと。現在の「襷」メンバーで防災ボランティアを災害ボランティアのきっかけとして、防災意識を高めようというという人がいたので、被災地支援を行うことで、防災意識を高める取り組みが必要なこと。防災にかかわらず、若者の地域の人とのかかわりや、地域そのものとのかかわりが減ってきていること。

そこで、なぜ地域という言葉が出てきたのか。それは、災害時家族以外で一番かかわる可能性高いこと。それ以外にも地域の人、普段かかわっていること。そして、地域と若者との関係が薄れてきていることから、地域という言葉が出てきました。さらに、防災という言葉では、関心が持ちづらいという問題もあります。このような課題から生まれた目的は、２つあります。

若者の防災意識を高め、災害時に活躍できる若者の育成に努めること。地域とのかかわりをふやし、若者の防災意識を高めること。この２つです。

この目的の目標は、被災地へ行くことで、防災意識の重要性を再認識すること。地域との連携ができる若者をふやすこと。地域の人たちにも、防災に興味を持ってもらうこと。この３つです。この目標を達成するための手法として、①災害派遣制度の創設。②被災地派遣報告会の開催をすること。この２つです。①について、若者と地域の人が一緒に被災地へ行くことで、若者の防災意識が向上するとともに、地域の人たちとも協力することができるようになる。②について、①で体験したことを地域の人たちや、若者に伝えるために行います。

この活動によって見込まれる効果は、若者の防災意識が向上すること。実際の被災地を見ることで、恐怖心から危機感が生まれ、高まること。被災地に行った若者が、被災地の状況を友達に伝えなければいけないという使命感が生まれること。若者から大人へ被災地の状況を伝えることで、大人にも防災意識を高めさせることができること。若者と地域の人たちが共通の作業をすることで、地域内での世代間交流が生まれ、間接的に防災につな

がっていくことにより、双方に助け合いの心が生まれることです。
この事業がどのように地域社会に貢献できるかを考えてブラッシュアップしていきたいと思いますので、意見や質問、よろしくお願いします。
以上です。

議長／加藤稜唯委員

次にこの事業に対する質問や提案等があればお願いします。片瀬総務部理事。

総務部理事／片瀬

まず、防災という難しい課題に取り組んでいただきましてありがとうございます。感謝申し上げます。
私のほうから２点お聞きしたいと思いますが、１つ目はまず、質問でございますが、ただいま若者と地域の人が一緒に被災地へ行くことで、若者の防災意識が向上するとともに、地域の人とも連携することができるという説明がありました。確かに何をするにしましても、リアルな現実として体験したほうが感性が揺さぶられるといいますか、みずからの行動はもちろん、他人の共感を得やすいと、そういうことは大変理解できます。そこで得たものが必ず生かされてくると思います。
ただ、皆さんは、今説明にありましたように、被災地派遣制度という、制度を創設しようとしておりますので、政策の背景にある具体的な課題解決するために、被災地での活動、経験をどのように課題解決につなげるか、防災意識の向上というはかることがなかなか難しいものだけではなく、災害時に必要な行動、活動は何なのかなど、ある程度具体的な課題意識をもっていくことも必要だと思います。
そこで質問なんですけれども、具体的な課題とそれを解決するために被災地へ行って何をするか。被災地へ行く目的について、これまでの議論の中で出たものがございましたら、お聞かせいただきたいと思います。まず、１問目の質問になります。

山本青空委員

貴重な御意見ありがとうございます。
具体的に、金銭的な費用対効果は、現在のところ考えておりませんが、自分たちの身近な人から被災地での経験を聞くことは、ほかの人から聞くより経験や理解を得やすいと思いますが、より多くの人を被災地に派遣できるように考えています。私たちは、災害が自分たちの地域にいつ起こるかわからないという危機感を植え付けるためには、実際に経験することが一番だと考えています。映像や画像で防災意識が高まるのであれば、テレビ番組等で既にそのような取り組みがされているはずです。災害時に地域の協力体制をつくり、１人でも多くの市民の命を救うことがお金にかえることができない、もっとも重要な行政活動だと思います。

総務部理事／片瀬

はい、ありがとうございます。
被災地へ行って体験することで、気持ちが動くということでございます。確かに、被災地へ行って、感動や共感は人を動かす万能薬かもしれませんけれども、先ほど申し上げま

したように、政策として提言するのであれば、防災意識の向上という大きな目標があるんですけれども、そこにとどまらず、災害時に必要な活動、行動、具体的に課題は何なのかというところまで、想像を膨らませていただいて、その課題に対して手法が有効なのかどうか、そんな議論を深めていっていただきたいと思います。

これは質問ではなくて、お願ですので、お答えは結構です。

２つ目の提案でございます。

目的のところに、災害時に活躍できる若者の育成、これをブラッシュアップしていく中で、具体化した目的として、地域とのかかわりをふやし、若者の防災意識を高めるとあります。この若者議会の政策と地域の連携へのつながりについては、もう少し整理したほうがいいかなと思いますが、その上でもし地域で行われる自主防災会の活動ですとか、市が行っております防災の出前講座、こうしたものへの若者の参画が皆さんの目的、目標の手法に合致するのであれば、一緒にできるかなと思いますので、防災安全課のほうへ、お問い合わせいただければと思います。これは提案でございます。

土屋　涼委員

提案ありがとうございます。

できるだけこれからも、自主防災会とのかかわりをふやしたいため、そういうまずは、話し合いの場を設けてから活動していこうと思っています。

以上です。

議長／加藤稜唯委員

ほかに、質問や提案等はありませんか。竹下総務部長。

総務部長／竹下

ボランティアに行って、現状を確認してくるというのは、とても大事なことだと思います。ただ、費用対効果というのを考えると、先ほどもお答えをされていましたが、何人いけるのかなというのを考えます。その見てきたことをお伝えするということは、本人の心が動くというのはすごくわかります。こういうことが大事なんだなということがわかるんですけど、それを人に伝えようとすると、やっぱり本当の被災者の方の言葉を借りた自分からの言葉になってしまうので、直接伝わらないと思うんですね。だから、１人、２人、10人、20人、多く行けば行くほどいいです。ただ、新城市の公費を使おうとすると、なかなかそれが本当の使い方かなというように思いますので、これは提案なんですけども、被災地の方のいろいろなツールというか、つながりがありますので、被災地を経験した方のそうしたお話を聞く機会を向こうから人を呼んで、映像を見ながらとか、それからお話を直接聞いたり、それからその場で議論をみんなでし合うという、例えば10人、20人の人が行くじゃなくて、１人、２人の方を呼んで、こちらで200人、300人の方と一緒になって防災を議論するということがいいのかなということも思いますので、そうしたことも今後の議論の中で検討していただければと思います。

以上です。

山本青空委員

まだ、自分たちはこういう、九州とかに行ってないんですが、あしたから九州へ行き、どんな状況など、市の予算、公費を使っていくので、何人行けるかはまだ行ったことがないのでわかりませんが、それを行ってから自分たちでもっと考えを深めていきたいと思います。

御提案していただいた被災地から講師派遣の防災意識を高める手法で有効であると思われますので、今後の手法の１つとして検討していきたいです。

以上です。

議長／加藤稜唯委員

時間となりましたので、これをもちまして質問、提案を終了します。
引き続き、ブラッシュアップチーム、おしゃべりチケット事業です。よろしくお願いします。

ブラッシュアップチーム　おしゃべりチケット事業

私たちは、おしゃべりチケット事業を体験し、福祉介護課と社会福祉協議会、グループホームの方と意見交換を行うことで理解することから始め、課題やニーズの違いなどを知ることができました。

おしゃべりチケット事業の初めの目的は、高齢者のコミュニケーションの機会をふやすことと、若者と高齢者の交流する機会をつくることで、心を豊かにすることでした。ですが、若者を集めることができず、参加者は少なくなっています。そこで、自宅訪問から民生委員などの介護サービスに一緒に参加することで、参加しやすい環境づくりと将来福祉関係に進みたいと考えている学生に向けたアプローチをしました。結果、参加者は少しずつ集まりました。これまでに数回ミニデイに参加して、介護の現場と若者がかかわることで、介護の正しい理解を持ってもらうことができると思いました。

また、子育て以外にリフレッシュを図る機会が少ないことがあるという意見から、参加者を子育て世代の方に広げる案も出ました。そして、具体化した目的は、介護のイメージをよくして、新城市の社会福祉の環境を改善することと、幅広い世代が福祉を通じてつながるようにすることです。

１つ目の目標は、若者とミニデイ運営団体の両方のおしゃべりチケット事業の認知度を30パーセントにすることです。そのための手法は、今年度かかわったミニデイ運営団体や、教育機関とのパイプをつくり、意見交換を行うことです。

２つ目の目標は、若者が興味を持ちやすいおしゃべりチケット事業のＰＲを提案することで、そのための手法は、広報ほのかで特集ページをつくること。目を引くチラシをつくって若者が集まるところに設置をすることなどを考えています。

３つ目の目標は、子育て世代におしゃべり隊員に登録してもらうことです。そのための手法は、子育て世代の多く集まるところ、ティーズの番組の中でのＰＲなどを考えています。

この事業によって期待できる効果は、幅広い世代の方の交流で世代の悩みや問題の共有、世代間の相互の関係を深め、風通しのいい地域社会ができる、市外から来た子育て世代の

社会とのつながりとなること。学生へ介護福祉への関心を高めるきっかけをつくり、介護業界の人手不足を解消することです。この事業でどのように地域社会に貢献できるかを考えて、ブラッシュアップしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

議長／加藤稜唯委員

次にこの事業に対する質問や提案等があればお願いします。川合健康福祉部長。

健康福祉部長／川合

それでは、質問をさせていただきます。

政策の最初の、当初の事業の目的というものが、高齢者のコミュニケーションの機会をふやすことと、若者世代の交流の不足をどうしていくかということで地域の見守りとか支え合いの関心が薄れていることから、若者と高齢者の交流の機会をつくるというようなことで始まった事業で、若者と高齢者の心を豊かにするというような内容で、始められてというように思っています。

やはり、高齢者の方たちのアンケート調査でも家族とか、親類、親族との触れ合い、友人との付き合いを大切にしていきたいというようなアンケートに出ています。ですので、おしゃべりチケット事業の内容とすると、こういう触れ合いだとか、おつき合いのルールをいかにつくっていくかということが大切だということで、当初の目的の部分では、市の考え方と一致していたところでございます。

そこで、質問をさせていただきます。

当初の訪問傾聴、ご自宅に赴いてお話を伺ったりする方法から、今年度は、既存事業であるミニデイに参加しての実施という形で変更されています。そうした既存事業に行ける方、それから行けない方、というものを両方が存在するというように思っています。そういう、直接既存事業に参加できない方たちの理由というのを考えて、今回、訪問、傾聴の方向から既存事業で行う事業に変更していったという内容を確認しましたが、やはり当初の目的である、訪問傾聴の方法というものが大変大切ではないかなというように思っています。ですので、外出しづらい理由等も考慮しての内容なのかどうかも確認したいと思います。

よろしくお願いいたします。

浪崎夏華委員

おしゃべりチケット事業は、現在２年目を迎えていますが、参加者は少なくなっています。そこで、まずは参加者を集めるためにミニデイに参加するなど、参加しやすい環境づくりを行うこととしました。

また、ミニデイが高齢者の方に外に出てもらう効果があって、若者がいるなら参加しようとする高齢者もいるのではないかと思います。

こちらから質問をさせていただきたいのですが、介護の現場での人手不足に対して、新城市ではどのようなことをしているのか、ありますか。また、若者が何かお手伝いできることがあったら、お願いします。

健康福祉部長／川合

逆に質問いただきましたので、お答えをさせていただきたいと思います。

介護現場での人材不足というような形の内容を若者議会の方たちも確認されたというのは、すごく大きな効果だというように思います。先ほどの、スライドにもありましたように、よい地域社会をつくるということは、どういうことをするとそういうことができていくのか、地域での福祉を考えるという機会ができたのではないかというように思っています。

人材不足を一挙に解決するというのは、なかなか難しいことです。ただ、それを手をこまねいているだけではなくて、市としても研修会をふやさせていただいて、人材の育成を図ったり、それから地域の方々のボランティアの方々にそういう地域福祉の地域での福祉の見守り等をお願いしたり、それから機械を使ってそういう常時見ていただける環境をつくったりというような形で、人材不足に対する対策というものは、いくつかとってそれで少しでも人材不足を解消するような方策を少しずつ、前に進めるという努力をしていますので、皆さんに若者の皆さんにお手伝いできることは、無数にあると思います。

１つは、地域の高齢者の方たちの見守りをするという、あいさつをしていただくということでも結構ですし、お声をかけていただくということだけでも見守りにつながっていきます。ですので、そうした小さなおつき合いの部分を少しでもふやしていくような形ができていくといいのかなというように思っていますので、ぜひそういう面の人材不足だけではなくて、プラス今いる人たちとどのように結びつけていくかというのが非常に大切なことではないかなというように思っています。

お答えになっているかちょっと不明ですが、そういう形でお答えをさせていただきます。

以上です。

議長／加藤稜唯委員

ほかに、質問や提案等はありませんか。西尾議会事務局長

議会事務局長／西尾

新城市のみならず、日本全体で高齢化社会が、進展しております。そうした中で、若者がお年寄りを初めとして、子育て世代ということにまでまた範囲を広げようとされておられますけれども、さまざまな世代とお話をすることで、交流することでそうしたお話し合いの中で、例えばこんなことができたらもう少し暮らしやすくなるんだけどね、というようなそうしたような小さな政策の種というのがそこの中からも見つかるような、すごく可能性を秘めた施策だなというように私は思っております。そうしたことから、そうした小さな施策の種を交流の中から見つけていただきながら、それをまた、若者施策の厚みとして生かしていただけるような、そういったようなことが期待できることだと思っております。

今回、目標に掲げておられます３つの項目について、具体的に、定量的にどのような状態となれば達成できたのかということについて、お考えなのか教えてください。

また認知度を上げるということで30％ということを挙げておられますが、30％が何か元となるようなデータ、根拠があるのかそれについてもあわせて教えてください。

浪崎夏華委員

１つ目の項目は、数値目標に挙げましたおしゃべりチケット事業を知っている人を30％にすることが達成目標と考えています。30％にするという根拠なのですが、今の現状で、おしゃべりチケット事業を知っている方が全然いないので、まだ30％ぐらいにしています。

２つ目の項目は、具体的な数値目標は、現在検討中ですが、多くの若者におしゃべりチケット事業について知ってもらうように努めていきたいと思っています。

３つ目は、今後検討していく内容ですので、まずは１人でも隊員に登録してもらうことを目標にしていきたいと考えています。

議長／加藤稜唯委員

それでは時間となりましたので、これをもちまして質問、提案を終了します。

自席にお戻りください。

（拍手）

次に、教育ブランディングチーム、教育ブランディング事業です。

メンバーは、山﨑委員、夏目委員、黒田委員、三浦市外委員、柴田市外委員、メンターとして中村さんよろしくお願いします。

教育ブランディングチーム　教育ブランディング事業

教育ブランディングチームは、昨年の２期生の課題から政策チームの流れをくむ形で始まりました。

話し合いを進めていくうちに、このチームの目的が決まりました。若者が一市民としての自覚、意識、アイデンティティーを持つ手伝いをすることで、生涯にわたって積極的に社会参画することを促す、これが私たちの目的です。

新城の教育、つまり学力の向上に偏った教育ではなく、人間力や自主性に目を向けた教育が評価されるようになれば、そこに魅力を感じて移住先として新城を選択してくれる人もふえるという理想が私たちにあります。新城といえば教育、教育といえば新城というひとつの強みができたらいいなと思っています。

この目的に向かっていくつか目標を立ててみました。それがこちらです。

目標のうちの１つ目の、若者が自分の意志で活動することのきっかけの後押し。若者議会への応募者数の増加。市議会議員選挙への若者の立候補者数の増加。という目標を達成するための手法は、今年度やることのうちの、新城中学校での担当教諭との協働ワークショップを行うです。このワークショップは、昨年度２期生の方々が教育委員さんと意見交換をさせていただいて決まりました。

今後は、新城中学校だけでなく、市内の中学校でも実施していきたいです。

そして、この政策からは具体的な効果として、若者議会の応募者数の増加、市議会議員への立候補者数の増加、市民意識が高まり、投票率、投票質がともに高まるです。

これらの効果より、目的を達成できると思われます。

以上です。

議長／加藤稜唯委員

次にこの事業に対する質問や提案等があればお願いします。請井教育部長。

教育部長／請井

御提案ありがとうございました。

新城ならではの教育を推し進めて、充実させることによって市民満足度を高め新城の教育を発信していこうというような思いが伺われたところでございます。

若者議会がどのように新城市の教育にかかわっていき、若者が新城市にとってどうしていくことが有効なのかというようなことで、目標及び手法までシートをいただいておりますので、３点、確認させていただきたいと思います。

まず、目的のところで説明がありましたけれど、この事業が目指すところが何なのかということを少し説明していただきたいということなんですが、若者が一新城市民として、自覚、意識、アイデンティティーを持つ手伝いをすることで、生涯にわたって積極的に社会参画することを促すということが目的になっていますが、シートを事前に拝見させていただいたときに、この目的に対する目標設定というものにちょっとしっくり、理解できない、しっくりこないという感じがしましたので、この教育ブランディング事業の目指すところを少しわかりやすく説明をしていただきたいということがまず１つです。

続いて、目標の中で投票率を上げるということの試みが挙げられていますけれども、政治の役割、選挙の投票の意義につながるということは、教育課程の中に位置付けれられている学習内容となっておりまして、市政に関心がなければ、投票に行かないという若者がふえてしまいます。まずは、市政に関心を持つ若者を育てていくためには、若者議会として、何が必要、できるというように考えているのか教えていただきたいと思います。これが２つ目です。

最後、３点目ですけれども、小、中、高校生の意見を市の政策に反映させたいというようなことが書かれておりますけれども、先ほど出てまいりましたけれども、中学生議会では、学校ごとにそれぞれ現実的な課題など出されて、議論されておりますので、中学生については、意見を聞く対象として理解できますけれども、小学生までその対象にするというところで、少し説明をお願いしたいと思います。

以上、３点です。よろしくお願いします。

山﨑ランサム祈璃恵委員

御質問、ありがとうございます。

１つ目の質問の答えですが、今回の概要シートでは、目に見える形の目標をピックアップしました。ほかにも教育の質の向上や、若者の自発的な行動を促進するなども目標なので、そのような目標からも目的を達成することができると思っています。

２つ目の質問に対しては、今年度、教育ブランディングチームとして、政策提案をすることは考えておりません。しかし、12月３日に行われるワークショップに参加する新城中学校の生徒には、市政に関心を持てるような気づきを与えることができるように、新城中学校の先生と打ち合わせを重ねております。

３つ目の質問の答えですが、小学生から中学生へ成長する過程で、どのような変化があるのかを調べるため、小学生も対象としています。

貴重な御意見をありがとうございます。

議長／加藤稜唯委員

ほかに、質問や提案等はありませんか。請井教育部長。

教育部長／請井

ありがとうございました。今、回答いただいた件で少し確認、追加させていただきたいんですけれども、まず、事業が目指すというところで、今回提示していただいたシートについては、目に見える目標というものをピックアップしたということで、そうではない部分も教育の質の向上や、若者の自発的な行動というような、もう少し何か、具体的な、こんなことがしたいなということがあれば、教えていただけませんでしょうか。

それと、もう１点ですね、投票率の関係で回答いただきましたけれども、今年度このチームでは、政策提案は予定していないということですが、ことし、新城中学校の先生方と一緒に取り組んでいく中で、その後の、さっきお話が少しありましたけど、もっと広げていきたいというようなことで、特に教育については、人を育てるということで、非常に長い時間が必要でありますので、その辺をどのように先生方と一緒に取り組んでいこうというような考えがあるのか、少し具体的なイメージとかあれば、補足の説明をお願したいという、以上２点でございます。

よろしくお願いします。

三浦拓真市外委員

まず、最初の質問に対してなんですが、申し訳ありませんが、こちらから最初の質問について、逆質問という形を取らせていただきたいんですが、目的に対する目標設定がしっくりこない感じがしますということを先ほどおっしゃっていただいたんですが、具体的にどの辺がしっくりこないかというのを教えていただけるとありがたいなと思います。

よろしくお願いします。

教育部長／請井

私の言葉が失礼だったかもわかりませんが、目的として先ほど、一市民として自覚、意識、アイデンティティーを持つ手伝いをすることで、生涯にわたって積極的に社会参画することを促す、という中で、例えば、市議会議員、若者議会、市議会議員、それから投票率というものは、あくまでその目標の１つなんだろうというように思いますが、どれが先に出てくるのかなというところが、ちょっと私、個人的には、理解がそこまでいかなかったので、もう少し具体的にステップを踏んでいく、その最初の段階のところの具体的な目標が最初に来るのが、とっかかりとしてはいいのかなという思いがあったもので、それはそういうことを言わせていただいたということですので、将来的に色々なことを考えてそれぞれが色々な思いで取り組んでいただくのは、すばらしいことだと思いますので、否定するものではございませんので、よろしくお願いします。

三浦拓真市外委員

貴重な御意見ありがとうございます。
このチーム内では、ある程度目標があって、目的を達成するという道筋が見えていたというように感じていたので、今のような御意見をいただけたことは大変ありがたいことだと思います。今後、いただいた意見をもとに、再度検討していきたいと思います。
ありがとうございます。

議長／加藤稜唯委員
時間となりましたので、これをもちまして質問、提案を終了します。
自席にお戻りください。

（拍手）

それでは最後です。広報ＰＲチーム、ふるさと納税リニューアル事業です。
メンバーは、伊藤委員、メンターとして河辺さんよろしくお願いします。

広報ＰＲチーム　ふるさと納税リニューアル事業
私たちの事業は、目的として、ふるさと納税へのＰＲ方法、返礼品の見直しにより、全国へ新城の魅力を今以上に発信し、新城市の認知度の向上と経済の活性化を目指します。
現在新城市には、新城市といったらこれ、というものがないと思われます。そこで、新城市ゆかりの特産品、あるいは催し物をアピールし、生産者の思いをふるさと納税の仕組みを通して発信します。
そして、市外の人に新城市の魅力を届け、新城市のファンをふやすということを目的とします。
次に、目標です。まず、ふるさとチョイスと呼ばれる、ふるさと納税を紹介するまとめサイトがございます。そちらの新城市のページの閲覧数の増加を目標とします。
また、そのふるさとチョイスのふるさと納税何でもランキングというランキングのほうにランクインをするために、ふるさと納税の広告物のリニューアルをします。
次に、寄附者の満足度、及び本市への認知度向上のためにリピーターの増加をするため、寄附後の使い道を明確化します。
次に、ふるさと納税返礼品のリニューアル及び開発をします。
次に、手法に入ります。手法は、今年度行いたいことと、来年度に行いたいことの２つに分けました。
まず、今年度行いたいことです。ふるさとチョイスの再編集に伴い、写真、文章の作成と掲載提案をします。また、委員による生産者、業者へのインタビューをもとに、ふるさとチョイスの記事及び若者議会ホームページに掲載することをふるさとチョイスのふるさと納税広告物のリニューアルを行います。
次に、来年度行い、検討してもらいたいことです。
使い道の詳細をふるさとチョイスに掲載する。また使い道の進捗報告。使われ方紹介の動画作成、ふるさと納税についてのアンケート調査等の寄附後の使い道を明確化します。
また、若者と地域産業との連携による返礼品開発をするなど、ふるさと納税返礼品のリニューアルを提案します。
以上になります。

議長／加藤稜唯委員

次にこの事業に対する質問や提案等があればお願いします。松本企画部長。

企画部長／松本

取り上げていただきました、ふるさと納税ですけれども、これは平成20年から始まっておりまして、平成26年からは、全国的に寄附者、金額ともに飛躍的に伸びております。これは、ふるさと納税の返礼品を扱うサイトができたことで、知名度が各段に上がったということからでございます。

このサイトは、高価な返礼品ですとか、返礼率の高い商品を扱う自治体が紹介されていますので、返礼品合戦と言われています。これを受けまして、国のほうでは、本来の趣旨から大きく逸脱しないようにというそういう指導を促すようになっています。こうした状況におきまして、新城の若い人たちが本来の趣旨に沿った形で、自分のふるさとを応援してくれる人を開拓したいという思いが革新的ですし、非常にありがたいというように思っております。新しい、先ほど商品を開発してくださるという声もありましたので、大歓迎でございます。

新城ならではのもの、それから新城を体感できるものであれば、返礼品として登録が可能ですので、若い人の感性でアイデアを出していただければ、大変ありがたく思います。

目的達成のところで、２つほど質問させていただきます。

１つ目は、返礼品の生産者インタビューを実施するとおっしゃっていますけれども、どういう形でどういう計画で行うのか、どういう形式でインタビューをされるのか、また、どういう分野に行う予定があるのかということを教えてください。

２つ目は、目標としてふるさと納税専用サイトで、ふるさとチョイスの閲覧数増加とありますけれども、目的とする数値、及び閲覧数をどこで把握されるのかをお伺いします。

伊藤芳隆委員

ご質問ありがとうございます。まず、１つ目の回答です。

まず、どういった形式、どういった分野へ行うかというと、現在検討中なのですが、若者議会の委員及び担当課職員が、生産者のもとへ訪れて、直接お話を伺いに行くことを考えています。

また、生産している農家や伝統工芸品をつくる職人の方々、体験型にあがっている観光名所などへのインタビューを行いたいと思っています。

次に、２つ目の回答に移りたいと思います。

２つ目のものについては、ふるさとチョイスのサイトの運営の方に問い合わせをして確認する予定をやりたいと思っています。また、お気に入り登録の機能もございますので、そちらのほうの数値のほうで、比較対象するとわかりやすいということも考えております。

また、ほかの自治体とも比較することも手法だと考えています。

逆にこちらから質問が１つございます。

現在、新城市では、寄附の使い道の４つの項目に分けられていまして、しかし漠然としていて、具体的に何を使われているかということがわからないと感じました。この４つの選択肢を基盤に今、制度がつくられていると伺いますが、この仕組み自体を変えるべきだ

と提案します。現在、森林に関する事業に関しては砂防ダムといったり、治山ダムといった実際にどういったものに使われているのかという具体例、また、観光でしたら鳳来寺山等観光名所の修繕に使われているなどといった具体的な例があるとわかりやすく感じると思います。

ふるさと納税の寄附金の使い道見える化について、市がどのようなお考えを持っているかお聞きしたいと思います。

企画部長／松本

せっかく寄附をしていただいた方に対してどういった形で使われたのかということを見える化していくという重要性というのは、非常に重要であるというように考えております。御指摘のように今、４つございまして、ざくっとした感じで、森と緑のため、福祉、健康のためっていう４つの項目になっているんですけれども、それで実態を申し上げますと、それで寄附していただいた方は、一番多く選択されるのは、１番なんですね。それから推測しますと、どうしてもこういうことに使っていただきたいという志向がある方も中には、いらっしゃるんですが多くの方は、返礼品をチョイスして、それで寄附をしていただいているという方が多いので、皆さん方が提案していただいたように、魅力ある返礼品を一方では開発して提供していく。それから、それで寄附をしていただいた方には、どういった形で使われるかをしっかり明確にお知らせする、両面でやっていくのがふさわしいのではないかというように感じています。

議長／加藤稜唯委員

ほかに、質問や提案等はありませんか。西尾議会事務局長。

議会事務局長／西尾

それでは、質問させていただきます。

全国数ある1,700余りの自治体の中で、新城市を選んでいただいて、納税ののそうした支援をいただける、そのために新城ならではの返礼メニューというものを考える必要があろうかというように思います。特に若者議会といった非常に今、全国的に認知度が広がっております、そうしたことが若者議会にかかわるアクティビティへの参加。そういった点のメニューのお考えはないでしょうか。

伊藤芳隆委員

ありがとうございます。

私たちの若者議会に関連した返礼品ができないか現在検討しております。

例えば、他事業で紹介されているような、バブルサッカー教室に参加できる権利や若者議会関連のイベントに参加したりというようなど今後できないかということを考えていきたいと考えています。

現在市外に住んでいて、市内出身の方向けに、空き家もしくは、お墓の掃除などの返礼品プラスおしゃべりチケット事業などの他事業との連携による高齢者もしくは、高齢者向けの返礼品も視野に入れていきたいと考えています。

以上です。

議長／加藤稜唯委員

時間となりましたので、これをもちまして質問、提案を終了します。

自席にお戻りください。

（拍手）

次に市長からごあいさつをいただきます。

穂積市長、よろしくお願いします。

市長／穂積亮次

７時から約２時間近く、大変濃密な意見発表、質疑をさせてもらいました。

第１回の若者議会で皆さんお一人お一人から所信表明をしていただき、議長、副議長を選出までやっていただきました。それからわずか数カ月でありますけれども、私が率直に感じた感想としては、非常に質の高い、考え抜かれた意見発表、並びに質疑をしていただけたと思います。

11月の答申というのは、とても期待をし、楽しみにしたいと思います。これはやはり、３期目の若者議会というものの持つ大変大きな意味合いだと思いました。というのは、この第１回からきょうに至るまでの議論の過程というのは、これまでの１期、２期の若者議会の皆さんがそのつど、そのつど突き当ったり、悩んだりあるいはそれを通じて少し改善をしたり、また、私どもの担当の職員もそのプロセスの中で、やり方を改善をしたり、メンターの皆さんが自分の経験に照らして、助言をしていただいたり、あるいは２期から持ち越してきた課題を皆さんに正確に伝えてくれたり、そういういろいろな方たちの３年間にわたる努力の成果が皆さんの議論の質をリードしてくれたのかな、そんな気もいたしました。

そして、この３期の若者議会のきょうの意見発表の質疑で出たのは、いろいろなそれぞれの課題、９つのそれぞれの課題をお話をいただいたんですけれども、どうでしょうか、１期目の若者議会と比べると、地域、社会とのかかわりというのも非常に強く意識をした意見発表、あるいは政策提案が全体を貫いていたかなと思います。これには、若者議会の登場、誕生そして活動を地域の皆さんが見て、特に去年の地域協議会の意見交換の中では、地域へもっとかかわってほしいという提案といいますか要望が、地域の側から出されたということももちろんありますし、そしてまた皆さん自身が自分の役割、若者議会の役割というのを若者目線で政策提案をするというにとどまらずに、この新城市の各地域社会の中で自分たちがどんな役割を果たすべきなのか、それを通じて若者議会の力をもっとつけて、あるいは発信力を強めて、あるいはそれを通じて、新城市の魅力をより倍増させていくにはどうしたらいいのか、こういうことを考えて模索をした中、出されてきた問題だと思います。

一方で、これから答申に向かって政策をさらに精度を高めて、きょう我々の執行部のほうから出したいろいろな疑問点、あるいは改善点など踏まえて、これからさらに深堀をした議論をされていくのだと思いますし、またその過程の中で、地域の皆さんとのワークショップに参加をしたり、あるいは学校の先生と議論をしたり、あるいは今、お話にあった

ようにいろいろな民間の事業者の皆さんとお話を聞いたり、あるいは中学校に出向いて行って自分たちよりも下の世代に話しかけたり、あるいはまた、おしゃべりチケットのように高齢者、介護、福祉という現場と出会ったり、そういう中で恐らく皆さんの世界も広がっていき、問題意識もさらに広がって、深まっていくと思いますが、同時に地域社会というものの持っている意味合いと、皆さんが今、送っている時間とのある種の質の違いというか、ずれというのも当然感じていくだろうと思います。これは当然のことなんですね。というのは、皆さんはまだ、10代、20代の若者たちで、これから人生を描いて、ある人は学問を続けるだろうし、ある人は社会に出て働くだろうし、ある人は家庭を持ち、ような形になっていくわけですけれども、つまり皆さんは成長の過程にまさにあるわけですけれども、地域社会というのは、もちろん地域社会を構成している人はみんなそれぞれ人生がありますので、成長、変化をしているのですけれども、地域社会というのは、基本的にそこに居住している人たちを中心とした社会ですよね。居住しているというのは、世帯を持ったり、あるいは単身であっても、その中で一定の生活を維持しながら、その地域社会の安定を求めたり、よりよい環境を求めたりしている人たちです。つまりは、ある種の定住している人たちの集まり。これを地域社会ともいいます。もちろんその中には、いつも引っ越したり、本来出入りがあるんですけれども、基本的には、例えば地域社会の区長さん、あるいはいろいろお役をしている方々は、恐らくその地域に何十年、何年、何十年暮らし続けてきた方です。その方たちの求める地域社会のありようと、皆さんの求める地域社会のありようというのは、必ずしもイコールではないと。イコールではないことを恐れずにぶつかっていってほしいというのが私の望みであります。その定住、定常的な社会を維持している、運営している方々の御苦労が一方であります。

一方では、その社会をよりよい変化を求めていく君たちの活力、提案があります。その両者が同じ言葉を使っていながら、意味しているものが違うことを議論している場合もきっと出てくるだろうと思うんです。そういうところの１歩、１歩の中から君たち自身の地域社会を見る目、また地域社会の中で自分たちの果たす役割を考える視点というのも広がり、深まっていくだろうと思います。

要は何を言いたいかというと、これまでの若者議会は、若者たち自身の希望や求めるものをストレートに出して、施設のあり方を変えたり、そういう提案をしてきました。もちろん、その中では若者たちだけの施設ではないぞということを聞かされながら、自分たちの提案をさらに精度を高めてきたのですが、この３期目に入りまして、若者議会の一定の成果というのが現れる中で、じゃあその成果をもっと強く、広げていくために、あるいは地域社会の皆さんに若者議会を理解をしてもらい、そして君たち自身も地域社会に働きかけて、よりよい関係をつくったり、そういうことにチャレンジが始まっているわけですよね。そこで起こるいろいろな意見の違いとか、あるいは、あるときには矛盾とか、どうしても通じないなとか、そういうことが当然出てくるだろうと思うんですが、それを恐れないでほしいと、遠慮しないで地域の皆さんに自分の思いをストレートに伝えてほしい。

それは必ず、きょうの話を聞きながら君たちの提案や意見、考え方というのは、必ず地域の支える皆さんの心に届くだろうと思いました。届かせるためには、いくつかの山を越えなきゃいけないし、自分のやり方を変えていくための努力も必要でしょうが、必ずその気持ちは地域の皆さんに伝わるだろうということを、私なりにきょう、確信をすること

ができました。それによって、11月の答申、さらに多世代や地域の皆さんとの交わりというものがもっと広く深いものになっていくだろうということ。そして、君たちがその問題意識を持続をして次の若者議会のメンバーにも伝え、一定程度の集団の層が出来上がって、君たちが新城市の中堅を担うころには、この地域は必ず変わってるだろうな、また変えていかなければならないな。良い方にね。ということをきょうまた皆さんの一人一人の発言あるいは、振る舞いを見て強く感じることができました。

ここに至るまでの皆さんの議論の努力、真剣な努力だと思いますが、それをさらに続けていただいて、そのパワーがもっと新城市をよりよいまちにしていくように皆さんにも貢献してもらえるよう、心から願いたいと思います。

ともあれ２時間にわたる議論、大変緊張もしただろうし、疲れた思いもしただろうし、言いたいことも十分に言えなかったなという部分もたくさんお持ちだと思いますけれども、私どもとしては、きょう市長と、副市長、教育長を初め他の職員ここに臨んでおります。皆さんが感じていただいたとおり、真剣勝負をさせていただいていたつもりですし、君たちと対等に議論をしていこうと、そういう精神においては、私どもも劣らずに皆、共有しているつもりでありますので、これからもさらに質の高い、また考えをさらに深めた議論を続けていき、また我々もそれと一緒になって共存していきたいと思います。

大変長時間にわたりお疲れ様でした。

ありがとうございました。

議長／加藤稜唯委員

ありがとうございました。

本日は、本当にありがとうございました。

２時間にわたる長時間、進行を初め、傍聴席に来られた市民の方々、そして準備から今日のセティングから何からしてくださった、まちづくり推進課の皆様、先ほど市長が質の高い会になったとおっしゃられましたけど、そういった会になったのもこういった方々の理解や協力があったと私自身思っております。

今後とも御協力のほう、よろしくお願いします。

本日は本当にありがとうございました。

なかなか、きょうの会は市の行政としてリアルな意見がたくさん聞けました。今後とも、若者議会のほう、しっかりと今日の意見を参考にしていきたいなと思っております。

また、本日話し足りないというところもあると思うので、一応、今後、紙面だけのやりとりになっていってしまうと思うんですけれども、やっぱりきょう、すごくいい会になったので、きょうのように執行部の方々そして、担当課の方々と顔と顔を突き合わせて、腹を割って話す、そんな機会を今後ともつくっていけたらと、そのように思っておりますのでよろしくお願いします。

それから、これは今後の若者議会の方針となると思うのですけどきょうやはり、執行部のほうの質問の中に、今後どのように若者議会をかかわっていくのか、というような質問がたくさん出てきました。この辺に関しましても、本当に若者総合政策を考えるプランナーとだけしてやっていく若者議会でやっていくのか、それともプレイヤーとしての面をこれから向けて、また新しい広がりのある組織になっていくのか、こうしたところ若者議会

内部それから、条例をつくった方々、そして新城市の市民の皆様と一緒になって、この若者議会、新城市の若者議会というものを今後、どのように、どういうあり方でもっていくのか、それから今後、どのような若者議会にしていきたいのかというところも、今後考えていけたらいいなというように思いました

本日は、本当に長時間、ありがとうございました。

（拍手）

それでは、これをもちまして第６回新城市若者議会を閉会させていただきます。

ありがとうございました。

午後　９時　５分　閉会